

CASBEE-広島 (2010年ver.1)
広島鉄道病院

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.5
Q1 室内環境			0.40					3.5
1 音環境		3.0	0.15	2.6	1.00			2.8
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		3.1	0.35	3.2	1.00			3.1
2.1 室温制御		3.2	0.50	3.4	0.50			
1 室温設定		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能	熱負荷性能の高い材料を使用	4.0	0.25	4.0	0.43			
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		3.6	0.25	4.4	1.00			3.9
3.1 屋光利用		4.2	0.30	5.0	0.30			
1 屋光率	屋光率を高く取っている	5.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 屋光利用設備	屋光利用設備を採用	3.0	0.40	5.0	0.40			
3.2 グレア対策		4.0	0.30	4.0	0.30			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 屋光制御	庇・カーテン等で制御している	4.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
1 照度		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 照度均斉度		-	-	-	-			
3.4 照明制御	病床ベッド単位での照明制御を可能にしている	3.0	0.25	5.0	0.25			
4 空気質環境		3.9	0.25	4.1	1.00			3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	建物に使用する内装材の全てにF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.30	4.3	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能	開閉可能な開口部において、有効開口面積を床面積の1/10以上確保している	3.0	-	5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮	給気口は汚染源のない方位に設け、排気口とは6m以上離れて配置している	3.0	0.50	5.0	0.33			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御	禁煙建物とする	5.0	1.00	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.6
1 機能性		3.4	0.40	2.8	1.00			3.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.60	3.0	0.60			
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.40	2.5	0.40			
1 広さ感・景観	病室の天井高2.5m	3.0	-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
3 内装計画	事前にコンセプト等が明確化されている	4.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理		-	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		4.2	0.31	-	-			4.2
2.1 耐震・免震		5.0	0.48	-	-			
1 耐震性	建築基準法の150%の耐震性能を有する	5.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能	免震構造の採用	5.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	更新間隔の長い配管を使用	5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-	-
2.4 信頼性			4.0	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備	電気・ガスのハイブリット仕様としている	4.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	配管ルートを最短化し、更新時の断水範囲を最小限にしている	4.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	UPS・自家発電を採用している	5.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	PHS網など通信の多様化を行っている	4.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.8	0.29	3.3	1.00	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	3.6	0.50	
1	階高のゆとり	階高さにゆとりを取っている	5.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率を低く抑え、間仕切変更をフレキシブルに行える	5.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	設備機器のクレーン経路を計画	5.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース	バックアップスペースの確保	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.6
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		地域の景観を損なわないデザインとした	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	敷地緑化を積極的に行った	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物の熱負荷抑制		PAL値を低く抑える設計とした	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			4.5	0.20	-	-	4.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	光庭の採用等、太陽光を直接利用している	4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電・給湯に太陽熱利用を行った	5.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		効率の高い設備・制御を採用 ERR=38.5	5.0	0.30	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	大便器に節水器具を使用している	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	舗装下に再生砕石	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	GL工法を採用・内装にはLGSを使用	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.22	-	-	3.7
3.1	有害物質を含まない材料の使用	内装材に有害物質を含まない素材を使用	4.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.6	0.68	-	-	
1	消火剤		3.0	0.33	-	-	
2	断熱材	ODP=0 GWP=1の断熱材を使用	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	4.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2が標準建物より大幅に少ない	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	風向き等に配慮した	4.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	交通渋滞が起きないように、適正なアプローチの検討をした	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	廃棄物の計画回収を行えるようにする	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		-	-	-	-	
1	騒音		-	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害、日照阻害の抑制		3.0	0.67	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		4.4	0.33	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策チェックリストの過半をクリアしている	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	